

Regent Manner (1997 HK)

中国 / 工業製品 / 企業レポート

14年度の展望は13年度よりも明るい

2014年1月8日

- 13年度の売上高は当社の予想通り前年比で19.2%減になった
- 2014年1月の売上高は前年よりも早い旧正月が原因で低迷が続く見込み
- 中国のテレビ市場の新たな構造が事業機会をもたらす
- タッチパネルとLED照明が追加的な手がかり材料になる



予想の修正 (%)

12月31日決算	13年度 予想	14年度 予想	15年度 予想
売上高の変更	(0.3)	1.0	0.9
純利益の変更	(0.4)	0.8	0.9
EPSの変更	(0.4)	0.8	0.9

主な銘柄データ

52週間の高値/安値	1.72 / 1.28HKドル
30日間の1日当りの平均出来高	0.78 Mn
発行済み株式数	2,149.77 Mn
時価総額	2,794.69 Mn
主要株主	TSMC Taiwan (73.04%)

株価パフォーマンス



主要財務データ

12月31日決算	12年度	13年度 予想	14年度 予想	15年度 予想
売上高(100万USドル)	1,566	1,266	1,199	1,281
伸び率(%)	6	(19)	(5)	7
純利益(100万USドル)	63	55	57	61
伸び率(%)	(26)	(13)	4	8
EPS (USドル)	0.030	0.026	0.026	0.028
伸び率(%)	(28)	(12)	1	8
PER (x)	5.6	6.4	6.4	5.9
PBR (x)	1.0	0.9	0.8	0.8
EV/ EBITDA (x)	3.5	3.6	3.4	3.2
イールド(%)	7.7	6.8	6.8	7.3

出典: 会社データ, 京華山一

最新情報

13年度の売上高は当社の予想通り前年比で19.2%減になった RMIHは1月6日の大引け後に12月の売上高が前年比18.5%減の8,820万USドルになったと発表した。この結果、13年度の年間売上高は前年比19.2%減の12億6,630万USドルとなり、ほぼ当社予想(12億7,000万USドル)通りの結果となった。

当社の見方

2014年1月の売上高も前年よりも旧正月が早いことが原因で低迷が続く見込み 当社は、12月の売上高の落ち込みは、(1) iPadの注文のターンキープロジェクトから委託プロジェクト(実装技術などのみを行う)への変更、(2) no more iPadミニ用メインボードの注文がなくなったことが主因だったと見ている。しかし、下請けプロジェクトの比率の増加により粗利益率が上昇し、13年第4四半期の粗利益率は12年第4四半期に比べて1.1ポイント上昇して9.0%になると予想している。14年第1四半期については、これら2つの要因の影響が引続き売上高の足を引っ張り、1月の売上高の落ち込みは今年の旧正月休暇が前年よりも早いことが原因で相対的に大きくなる可能性がある。

中国のテレビ市場の新構造が事業機会をもたらす 当社はテレビに対する助成金計画が打ち出されることはなく、今年の中国での販売の伸びが抑制されると予想しているが、それでも以下の通り、RMIHのテレビ関連事業を牽引する4つの手がかり材料があると見ている。(1) **テレビサイズの大型化:** DisplaySearchのレポートによれば、50インチ以上のパネルに対する需要が2014年に前年比18.5%増の3,200万台に跳ね上がり、TFT LCD分野の需要も同9%増になる見込みである。大型テレビにはより多くの部品がSMT(表面実装技術)サービスによって組み込まれる。(2) **4K2Kテレビの増加:** 4K2Kテレビの出荷台数は2014年に前年比568%増の1,270万台になる見込みである。そのより複雑な構造もSMTサービスに対する需要を牽引する。(3) **メディアのプラットフォームと組むテレビメーカー:** この新ビジネスモデルにおいては、スマートテレビの価格は市場シェア獲得のために極めて低価格に設定される一方で、利益はLetvなどのメディアのプラットフォームから生じる。このモデルが中国でのトレンドになる可能性が高く、テレビの買い替えが加速する可能性がある。(4) **中国のテレビメーカーによる積極的な新興市場への進出:** 中国のテレビ市場の成長は鈍化していることから、TCLやSkyworthなどの中国のテレビメーカーはテレビ出荷台数の伸びを維持するために積極的に新興市場へ進出しており、これもRMIHのような川上のサプライヤーに恩恵をもたらす。

タッチパネルとLED照明が追加的な手がかり材料になる Windows 8の浸透度の上昇に伴い、タッチパネル式ノートブックPCの出荷台数は増加し、4年間の年平均成長率は34.2%となり、2017年の出荷台数は6,420万台になる見込みである。RMIHは、大型タッチパネル事業に関してTPKならびにO-filmの2社との提携関係を活かすだろう。また、米国は2014年より40ワットならびに60ワットの白熱ランプの使用を禁止する。これがPhilipなどの高品質LEDランプメーカーに事業チャンスをもたらすだろう。RMIHはPhilipのLEDランプの主要OEM供給業者の1社であることから、RMIHのLED照明事業が今年飛躍する可能性がある。

免責事項: 本資料は、情報の提供のみを目的としたものであり、有価証券の売買の推奨を意図したものではありません。コアパシフィック山一インターナショナル(香港)は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。本資料は、信頼に足ると考えられる情報源を基にしておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料内で示す内容は予告無く変わる場合があります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。コアパシフィック山一インターナショナル(香港)またはコアパシフィック・グループの企業、同グループに関係ある個人は、本資料の使用または本資料への信頼に起因するいかなる法的責任も負いません。当資料の一切の権利はコアパシフィック山一インターナショナル(香港)に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則(平14.1.25)」に基づく告知事項>
本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。